令和６年度　国立妙高青少年自然の家　教育事業報告

妙高アドベンチャー研修会

実施期間　：　令和６年５月２６日（日）

目的・趣旨

□当施設で多くの活動団体が実施している妙高アドベンチャー（MA）及び、その基礎となっているプロジェクトアドベンチャーの理念や手法について、体験を通じて理解を深める。

□利用団体の引率者等の研修の機会とし、妙高のフィールドや身近なフィールドでの指導技術の向上を目指す。

事業概要

【参加者数】　28名（18歳以上の社会人・大学生）（妙高自然の家職員6名含む）

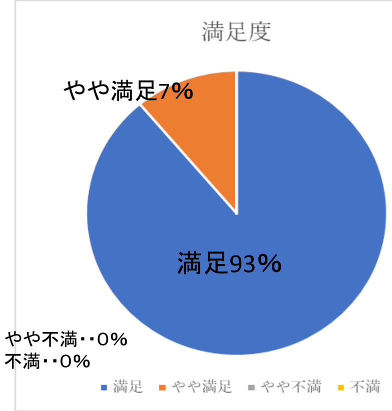
【実施内容】　□講義：妙高アドベンチャーの定義について

□実践：妙高アドベンチャー実技

□振り返り

【外部指導者】（講師）難波　克己　氏（PAFUNN所属）

参加者満足度



事業のポイント

□妙高で人気のプログラムについて基礎的な理解、知識を深めることができる。

□妙高アドベンチャーを実際に体験することで、感じ方やプログラム構成などを身をもって知ることができる。

成果

□講義では、安全管理、利用者への声掛けや意欲の引き出し方、プログラム構成について学んだ。

□実技では、妙高アドベンチャーのプログラムを一緒に体験することで、プログラム構成の意図やねらいを感じ取ることができた。また、参加者の中には新しいプログラムを体験することができ、指導の幅が広がったという声が聞かれた。

□振り返りの時間では、個人で感じたことをキーワードにまとめて発表した。参加した目的は各個人で異なるが、妙高アドベンチャーという共通の体験を通し、感じたことや学んだことを共有したり深めたりすることができた。また、参加者が活動指導に戻ったときに、学んだことをどのように活かしていきたいかなどを具体的に聞くことができ、この事業の意義を感じることができた。

事業の様子

講義①

実践①

振り返り

講義②

実践②

振り返りシート

参加者の声

□指導者の方から大いに刺激を受けました。実際の指導の場面に活かしていきたいという思いになりました。

□ゲームの応用や苦手な人に対するフォローの仕方を知ることがよかったです。

□自分自身の学びの場になりました。スキルアップできてよかったです。

課題

□参加者の確保が難しい。そのため、広報活動や教育関係者への参加方法を柔軟に考えていく必要がある。